### 2021年10月3日<聖霊降臨節第20主日

世界聖餐日・世界宣教の日

22462(27)

No.

年主題

招

「恵みを数えつつ歩む教会 |

#### 1.礼 拝 順 序

司式

役員

奏 楽

オルガニスト

前 奏

> わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き/わたしの祈りの 家の喜びの祝いに/連なることを許す。彼らが焼き尽くす 献げ物といけにえをささげるなら/わたしの祭壇で、わた しはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈り

の家と呼ばれる。追い散らされたイスラエルを集める方/ 主なる神は言われる。既に集められた者に、更に加えて集 めよう、と。 (イザヤ書56:7~8)

○ 讃美歌 21-409番(三編1番)1節

○ 主の祈り (次ページ)

○ **交 読 文** 3 詩編 8 篇 (別冊p.2、一編交読文p.6)

○ 信仰告白 使徒信条 (次ページ)

マタイによる福音書 2 1:1 2~22 (新約p.40)

祈 祷

説 教 「住みたまえ、きみよ、ここに、この胸にし

祈 祷 加藤眞衣子牧師

○ 讃 美 歌 一編124番(1,2節)次ページ

聖 配餐:役員 餐

○ 讃美歌 -編124番(3,4節)

奉 献

お当番

讃 美 歌 21-65-2番(一編548)

報

頌 **栄** 21-29番(一編544番)

祷 #

加藤眞衣子牧師

## 2.集 会 案 内

- ○バイブルクラス 9:30~10:10 於:教育館
- ○礼, 其前祈祷会 10:15 於:礼, 其堂前方
- ○礼拝堂お掃除 礼拝後
- ○教会学校 15:00 メッセージ:CS教師 ヨハネに よる福音書 $14:1\sim6$  どなたでもご出席ください。
- ※聖書研究・祈祷会は休会中です。それぞれの場にあってお 祈りください。

聖書 (旧約聖書)箴言30:15~31(聖書日課・木曜日)

# 祈り

- **今月の** コロナウイルスに感染された方々のご快復と、感染症の 一日も早い終息のために。医療従事者の方々のために。
  - 伝道献身者のために。神学校のために。
  - 盲教師のために。
  - ・ 土地・建物資金返済献金(年間目標額: 100万円)をお ささげ出来ますように。
  - 教区祈りのカレンダーより祈る教会:白鷺教会 願念望 牧師、創立1946年、現住陪餐98、礼拝出席52、祈祷会出 席9、CS出席3、予算1147万円。

#### ○次週主日礼拝 10月10日(日)10時半 聖霊降臨節第21主日【神学校日礼拝】

「必要なただ一つのこと | ルカによる福音書10:38~42 小泉 健牧師(東京神学大学教授)

司式:加藤牧師 奏楽:柄田祈久子 礼拝当番:前田イツ子、大江良子

招詞・イザヤ43:1 交読文・10

讃美歌・21-56、21-472、21-29

- ○礼, 其前祈祷会 10:15 於:礼, 其堂前方
- ○特別講演会「コロナ禍の礼拝の守り方」小泉先生
- ○礼拝堂お掃除 講演会後 ○役員会 14:30~

#### 【主の祈り】

天にまします我らの父よ。 願わくは御名(みな)をあがめさせたまえ。 御国(みくに)を来たらせたまえ。 みこころの天になるごとく、 地にもなさせたまえ。 我らの日用(にちよう)の糧(かて)を 今日も与えたまえ。 我らに罪を犯すものを我らが赦(ゆる)すごとく、 我らの罪をも赦したまえ。 我らを試(こころ)みにあわせず、 悪より救いいだしたまえ。 国と力と栄えとは、 限りなく汝(なんじ)のものなればなり。 アーメン。

## 讃美歌124番

- みくにをも宝座(みくら)をもあとにすてましてくだりにしイエス君をうくる家あらず(おりかえし)住みたまえ、きみよここに、この胸に
- みつかいは声たかく み名をほむれども かみの子は賎(しず)の屋に うまれたまいけり (おりかえし) アーメン

#### 【使徒信条(しとしんじょう)】

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊(せいれい)によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、

三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、

生ける者と死ねる者とを審(さば)きたまわん。

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し(ゆるし)、身体(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず。 アーメン。

主よ 秋がきました 夏はとても大きいものでした あなたの影を 日時計の上におき 野面に風を 吹き放ってください 熟れ残る果実に 実ることを命じ

南国ふうの日をなお二日与え かれらを成熟へと駆りたて 最後の甘さを 重く芳醇な 葡萄酒としてください (リルケの詩)